

令和3年度病害虫発生予報第1号

令和3年4月1日
山梨県病害虫防除所

今月の天気予報

3月25日気象庁発表、1か月予報による関東甲信地方の向こう1か月（予報期間3月27日～4月26日）の天気は次のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。気温は高い確率が70%です。降水量は、平年並の確率が40%です。

I 特に注意が必要な病害虫

【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
ブドウ	黒とう病	やや早い	やや多い	<ul style="list-style-type: none">○昨年収穫期の調査（シャインマスカットほ場）で、新梢（副梢を含む）の発病ほ場率がやや高く、病原菌の越冬密度が高いとみられる。○本病は、好適温度がやや低いため、早春から菌が動き出し雨水に混じって伝染する。向こう1か月の気温は高く、降水量は、ほぼ平年並の見込みであり、萌芽～展葉が早まるとみられる。□約2年間、病斑は菌を放出するので、病斑が見られる結果母枝等は、見つけ次第除去する。□特にシャインマスカット等は、本病に弱いので、耕種的防除と併せ、展葉初期にオンリーワンフロアブル(展着剤加用)を散布する。催芽促進を行っている園では生育が進むので、防除が遅れないように注意する。
モモ	せん孔細菌病	やや早い	やや多い～並	<ul style="list-style-type: none">○昨年、常発地域及び一部地域で果実被害も見られ、調査園の全てで発病葉を確認した。○昨年、台風に伴う暴風雨はなかったが、10月は前線等の影響で降水量が多く、病原細菌の越冬密度はやや多いとみられる。○向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みであり、生育の前進化に伴って潜伏細菌の活動も早くなるとみられる。□芽枯れや枝枯れ、春型枝病斑のある枝は、見つけ次第せん除する。□アグレプト液剤・水和剤またはマイコシールドを防除暦に従って満開直後から定期的に散布する。なお、雨媒伝染するため、散布は降雨前に行う。□令和2年度病害虫防除所情報第9号「モモせん孔細菌病4～5月の防除について」ならびにモモせん孔細菌病防除マニュアル（令和2年12月発行）も参考にする。

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

II 各作物の病害虫発生予報

【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
モモ	うどんこ病	やや早い	やや多い	<p>○近年、果実被害(毛じ障害)がみられる。</p> <p>○向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並みの見込みで、生育が前進するとみられる。</p> <p>□感染期に当たる満開直後から、本病に適用がある薬剤を選択して、遅れないように防除を行う</p> <p>□被害果は優先して摘果する。</p>
モモ	モモハモガリガ	早い	やや少ない ～ 平年並	<p>○越冬量調査では、一部の地点で越冬成虫が確認されたが、全般的に平年より少ない。</p> <p>○有効積算温度による越冬成虫の飛来盛期予測（200日度、発育低温限界4.5℃、1月16日起算日 出典：愛知農総試）約200日度）では、3月25日前後がピークで、モモ園への飛来も確認しているが、フェロモントラップへの誘殺数はやや少ない～平年並みである。</p> <p>○向こう1か月の気温は高い見込みで、展葉が早まることが予想され、展葉間もない葉への産卵も早まるとみられる。</p> <p>□この時期、気温が高くと産卵の機会が増え多発する恐れがあるため、食入初期（落花期）の防除を徹底する。</p>
立木類	ウメシロカイガラムシ	やや早い	平年並	<p>○園地による差はあるが、一部越冬成虫の寄生がみられる。</p> <p>○向こう1か月の気温は、高い見込みである。有効積算温度による第一世代幼虫のふ化開始期予測（発育低温限界10℃ 1月1日起算日 140日度 出典：福井園試）では、早場4月19日頃、中間地22日頃と早まる可能性が高い。</p> <p>□例年4月下旬～5月上旬が、1回目の幼虫発生ピークとなる。この時期、幼虫の発生が揃うため、防除効果が高いので防除を徹底する。</p>
立木類	果樹カメムシ類	やや早い	平年並 ～ やや多い	<p>○昨年8月下旬以降の誘殺数が、平年並からやや多く、越冬成虫がやや多いとみられる。</p> <p>○向こう1か月の気温は、高い見込みである。</p> <p>□果樹園には、幼果期（4月末）以降に飛来する事が予想され、この時期の被害は、クボミ果などの奇形になる事が多い。</p> <p>□果樹園への飛来状況は、山林の状況によって年次変動がある。夕方～夜間（寒い内は昼間）に園を見回り、飛来状況に応じ地域ごとに一斉防除を行う。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
スモモ・モモ	アブラムシ類	やや早い	平年並	<p>○向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みであり、生育（展葉）の前進化が予想される。それに伴い、アブラムシ類の発生時期も早まるとみられる。</p> <p>□生育進度に応じ、開花直前（発生初期）～落花期の防除を実施する。また、発生が続く場合はアドマイヤー水和剤、ウララDF等での追加防除を行う。</p>

※地域によっては、ミツバチ等の訪花昆虫を導入する地域もあるので、防除(主に殺虫剤)に当たってはミツバチ等への影響も考慮し、指導機関の防除指導(防除時期、使用薬剤など)に従う。

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
施設ブドウ	ハダニ類	—	平年並	<p>○向こう1か月の気温は高い見込みである。</p> <p>□例年、この時期以降から発生がみられる。発生は、スポット的に始まるので、発生初期を見逃さず防除を徹底する。</p> <p>□防除暦を参考に、殺ダニ剤の散布を行う。発生が拡大してからの防除では発生を抑える事は難しく、多発すると果実品質にも影響が出るので注意する。</p>
施設ブドウ	灰色かび病	—	平年並	<p>○向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みである。</p> <p>○開花期が天候不順に当たると、ハウス内での発生が多くなる。湿度がこもりやすいハウスでは注意が必要である。</p> <p>□開花期を迎える作型では、ビニールマルチの敷設とハウス内の換気に務める。</p> <p>□暖房機や循環扇があるハウスでは、多湿時には稼働させる。ハウスシャインでは、幼果期以降の多湿条件は「未熟果粒混入症」等の生理障害を招くので注意する</p> <p>□落花後の花かすを取り除くとともに、発病花穂・果房は取り除き、薬剤防除を実施する。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/yamanashi>

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
半促成トマト	葉かび病	—	平年並	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。</p> <p>□施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行う。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。</p> <p>□多発生すると防除が困難なため、早期発見に努め、初期防除を徹底する。</p> <p>□り病した葉は伝染源となるため、除去して施設外に出し、処分する。</p> <p>□葉かび抵抗性品種でもり病する新レースの葉かび菌が発生しているため、葉かび病の症状が出ていないか注意する。</p>
	すすかび病	—	並 (例年比)	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は例年並である。</p> <p>○向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。</p> <p>□施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行う。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。</p> <p>□多発生すると防除が困難なため、早期発見に努め、初期防除を徹底する。</p> <p>□り病した葉は伝染源となるため、除去して施設外に出し、処分する。</p> <p>□葉かび病と似ているため、防除には両方に適用のある薬剤を利用する。</p>
	コナジラミ類	—	並 (例年比)	<p>○3月下旬現在、黄色粘着トラップほ場（中央市）において、コナジラミ類はほぼ誘殺されていない。</p> <p>○3月下旬現在、巡回ほ場ではほぼ発生が見られていない。</p> <p>○向こう1か月の気温は高い見込みである。</p> <p>□ウイルス病を媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、施設開口部（天窓、側窓、換気扇口等）はすべて0.4mm目以下の防虫ネットで被覆する。出入り口は二重カーテンにするなどして、侵入を防止し、ネットの隙間や経年劣化の穴がないかなど、施設の点検を励行する。</p> <p>□黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の誘殺状況を確認し、発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p> <p>□施設内外の雑草は、コナジラミ類の増殖源となるため、除草を徹底する。また、芽かきした茎葉は適切に処理する。</p> <p>□ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋に入れてコナジラミ類を死滅させ、枯らしてから施設外に持ち出し、適切に処分する。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/yamanashi>

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
半促成キュウリ	べと病	—	平年並	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。</p> <p>□施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行う。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。</p> <p>□早期発見に努め、発生初期の防除をり病した葉は除去して施設外に出し、処分する。</p>
	アブラムシ類	—	並 (例年比)	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の気温は高い見込みである。</p> <p>□早期発見に努め、発生初期の防除を徹底する。</p>
	ハダニ類	—	並 (例年比)	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の気温は高い見込みである。</p> <p>□発生が多くなると防除が困難になるため、早期発見に努め、発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p> <p>□葉の裏に多く寄生するため、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。</p>
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。</p> <p>□多発してしまうと防除が難しくなるため、予防防除に重点を置く。</p> <p>□早期発見に努め、り病した茎葉・果実は有力な伝染源となるため、除去して施設外に出し、処分する。</p> <p>□同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p>
	ハダニ類	—	平年並 ～ やや多い	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並からやや多い。</p> <p>○向こう1か月の気温は高い見込みである。</p> <p>□発生が多くなると防除が困難になるため、早期発見に努め、発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p> <p>□下葉の裏に多く寄生するため、生育に影響のない範囲で下葉を除去した後、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。</p> <p>□薬剤によってはミツバチへの影響があるので、薬剤の選択には注意する。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/yamanashi>

【野菜全般】

作物	病害虫名	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
灰色かび病(半促成トマト・半促成キュウリ・イチゴ等)	—	平年並	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。</p> <p>施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行う。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。</p> <p>□早期発見に努め、り病した茎葉、花、果実は有力な伝染源となるため、除去して施設外に出し、処分する。</p> <p>□前年多発したほ場では発生に注意し、予防散布に努める。</p> <p>□同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p>
うどんこ病(半促成トマト・半促成キュウリ等)	—	平年並	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。</p> <p>□早期発見に努め、り病した茎葉、花、果実は除去して施設外に出し、処分する。</p> <p>□発病してしまうと防除が難しくなるため、予防防除に重点を置く。</p> <p>□同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p>
アザミウマ類(半促成トマト・半促成キュウリ・イチゴ等)	平年並	平年並～やや多い	<p>○3月中旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並であるが、発生がやや多く見られるほ場もある。</p> <p>○向こう1か月の気温は高い見込みである。</p> <p>□早期発見に努め、発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□侵入防止のため施設開口部に寒冷紗を設置する。</p> <p>□施設周辺内外の雑草は発生源となるので除草を徹底する。</p> <p>□同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p>

【稲】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
苗立枯病	平年並	平年並	<p>○向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並の見込みである。</p> <p>□育苗ハウス、床土及び育苗箱の消毒を徹底する。</p> <p>□リゾープス菌による立枯病を防ぐため、べた積みは避ける。</p> <p>□緑化期以降は昼間25℃以上、夜間10℃以下にならないよう、保温資材の開閉はこまめに行う。</p> <p>□高温や多湿、過灌水は発病を助長するため注意する。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/yamanashi>

Ⅲ 各病害虫対策

【果樹 立木類】

ハマキムシ類対策

- (1) 開花期から、花や発芽初期の葉を綴り合わせて食害する。中齢幼虫以降になると、防除効果が劣るので適期防除を心掛ける。
- (2) ハマキムシ類の多い場合は、落花期にフェニックスフロアブル 4,000 倍を用いる。

灰星病（花腐れ対策）

- (1) 落花期に降雨が続くと発生が多くなるので、天気予報等に注意し、防除を徹底する。
- (2) オウトウの雨除けハウスでは、開花期に降雨が続く場合、ビニールを下げるなどの対策も併用する

【夏野菜作付前の対策】

夏秋ナス 青枯病、半身萎ちょう病等

- (1) 抵抗性台木を用いる。
- (2) 連作を避ける。
- (3) 排水を良好にし、過湿を避ける。
- (4) 土壌中に残存している病原菌や害虫を死滅させるため、苗床、仮植床及び本畑の土壌消毒を行う。
- (5) 防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/yamanashi>

【サツマイモ基腐病の対策】

近年、九州地域のサツマイモ産地において発生が確認され、被害地域の拡大が見られている。発病すると地際部から茎が枯れ、いもが腐敗する症状を引き起こすことにより、大幅な減収を生じる。本県での発生は確認されていないが、被害の蔓延を防ぐため、以下の点に注意する。

- (1) 未発生ほ場で生産されたことの確認などにより、健全な種苗を確保する。
- (2) 植え付け前の種苗消毒を行う。
- (3) 栽培期間中は、ほ場観察を通じて本病の早期発見に努める。

【稲 種子伝染性病害対策】

種子伝染性病害では、主にいもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病などがある。以下の点に注意し、は種前の防除を徹底する。

- (1) 発病ほ場の籾は、種子として使用しない。
- (2) 塩水選を行い、り病籾を選別し、取り除く。
- (3) 薬剤による種籾の消毒は同時防除を徹底する。

いもち病、もみ枯細菌病、ばか苗病の同時防除を行う場合は、次のいずれかの方法で行う。
なお、薬液の温度は10℃以下にならないように注意する。

- ・乾燥籾を薬剤（スポルタックスターナSE、テクリードCフロアブルの各200倍液）に24時間浸漬する。
- ・乾燥籾を薬剤（上記薬剤の各20倍液）に10分間浸漬する。
なお防除効果を高めるため、薬液の温度は15℃以下にならないようにする。

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/yamanashi>

(4) 他の種子消毒薬剤については、山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

IV その他

【水田において使用する農薬の止水期間の遵守について】

- (1) 農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項を確認し、止水期間を7日間とする。また、止水期間の農薬の流出を防止するために必要な水管理や畦畔整備に努める。
- (2) 水稲初期剤の使用時期は、移植または播種の7日前までであり、農薬の河川等への流出を防止するため、移植6日前以降には使用しないこと。

【令和3年度 病虫害防除基準・農薬適正使用指針】 が刊行されます。

価 格：2,500円（税込、送料無料）

販売開始時期：4月上旬

お問合せ先：山梨県植物防疫協会

〒400-0034 甲府市宝1-21-20（山梨県農業振興公社内）

TEL. 055-232-2760

FAX. 055-223-2117

【農薬は正しく使いましょう】

（農薬の適正使用について）

https://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/kenkyu/nouyaku_shiyou.html 参照)

連 絡 先

山梨県病虫害防除所（山梨県総合農業技術センター調査部）

TEL 0551-28-2941

Eメール byogaichu@pref.yamanashi.lg.jp

インターネット

山梨県病虫害防除所ホームページ

「トラップ調査結果」「病虫害写真」等を掲載しています。

アドレス <https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/>

山梨県農薬適正サポートシステム

山梨県病虫害防除基準・農薬適正使用指針に掲載された農薬の最新登録内容を確認できます。

アドレス <http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>